



寸劇で交通ルール再確認



今 年度最後のかもしかクラブ交通安全教室が2月5日（水）にふたば保育園で行われ、園児が交通のルールを寸劇で再確認しました。劇は町の阿部交通安全専門指導員と尾花沢市・村山市の指導員によるもので、3人が流行のギャグも交えてユーモアたっぷりの演劇を披露しました。劇には信号の前できちんと止まること、道を渡るときは左右を確認すること、不審な人についていけないことなど、今年1年間に学んだ内容が盛り込まれていて、子どもたちは時折笑い声を上げたり、子どもに扮した指導員が不審者役に連れて行かれそうになると「助けて」と大きな声で一緒に叫んだりして、学んだ交通ルールを楽しく再確認していました。

鬼を追い払え!

節 分の豆まきが大石田保育園で2月3日（月）に行われました。おゆうぎ室で節分のお話の読み聞かせが行われたあと、園児らは「えいえいおー」と元気な掛け声で、鬼退治に出発。手作りの鬼の面をかぶって保育園の外へ出たところに園舎の陰から赤鬼と青鬼が登場すると、子どもたちは臆することなく「鬼は外、福は内」と思いっきり豆を投げつけていました。それでもなかなか退散しない鬼たちに対して、園児らはおうちの人や先生の言うことを聞くこと、友達に優しくすることを約束して鬼に帰ってもらいました。



雪国の課題に大胆な提案

山 形大学の1年生およそ40人が1月25日（土）に役場大会議室で研究発表会を開き、豪雪地・大石田町が抱える課題について学生目線の地域振興策を提案しました。町と山形大学は平成27年に地方創生に関する覚書を交わっていて、学生らは「雪国で考える」をテーマに継続的に町を訪れて、雪国大石田が抱える課題に対し提案を行っています。発表会では8つの班に分かれた学生が、雪を特産品にする取り組みや冬の観光客を呼び込むためのプラン、雪かきや雪下ろしを楽しむ道具のアイデアなど、学生らしい柔軟な発想が次々と提案されていました。



雪少なくても雪あそび満喫!



ふ たば児童センターで2月8日（土）に「ゆきんこフェスティバル」がで開催され、子どもたちが雪国ならではの遊びを楽しみました。今年は記録的な少雪ですが、この日に合わせたように降った雪のおかげでグラウンドには20センチ程度の積雪があり、子どもたちはそりすべりや、雪中かるた取り大会、雪中宝探しなどの遊びを楽しみました。会場では玉こんにゃくや焼き芋などあったかい食べ物の屋台が並び、夜には花火の打ち上げも行われて、訪れた親子連れや地域の方が体を温めながら、幻想的な冬の花火を楽しんでいました。

SDGsカードゲームで楽しく学ぶ



国 連のサミットが2015年に採択した「SDGs（持続可能な開発目標）」について学ぶ催しが2月7日（金）にこえのくらで開かれ、約20人がカードゲームを使って国際社会共通の目標について学びました。これは大石田若者応援隊（星川優哉代表）が開いたもの。参加者が数名のグループに分かれてカードゲームを行い、各個人の活動が社会や経済、環境に影響を与えていることを確認し、説明を聞いただけではわかりにくいSDGsが定める目標を学びながら、より良い世界にしていくためにはどのように振る舞えばいいか、ゲームを通して考えていました。

世界にひとつ絵本バッグづくり

町 立図書館が主催する親子読書講座「絵本バッグをつくらう」が、2月11日（火・祝）に虹のプラザ小会議室で開催され、参加者がオリジナルの絵本バッグづくりに取り組みました。これは、自分で作った絵本バッグを持つことで本や読書に親しみを持ってもらおうと開催されたもので、横山まささん（桂木町）、井上喜久子さん（上ノ原）を講師に、小学校でも使える絵本バッグの基本の絵本バッグづくりが行われました。参加者はミシンなどを使い、事前に自分で選んできた布を型どって、世界に一つだけのオリジナル絵本バッグを完成させました。

